

北海道文教大学

後援会 会報

No. 7

CONTENTS

後援会活動報告	1
理事長・学長挨拶	2
就職課便り	3
後援会の資格取得の奨励について	4
吹奏楽同好会の活動について	4

平成23年3月10日(木)

発行責任者 伊藤誉志久
発行係 〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
北海道文教大学事務局学務部教務学生課内
北海道文教大学後援会 TEL 0123-34-0011

平成22年度の後援会活動などについて



北海道文教大学後援会会長
伊藤 誉志久

り、役員会で協議した結果、条件付きではありま
すが要請に応じて後援会として更なる支援を
実施することといたしました。

当面の日程としては、今年度の学位記授与式並
びに明年度の入学式において、更に磨きがかつた
であろうその腕前が披露される予定と聞いており
ます。

今後は、様々な活動を通じて恵庭市をはじめと
する地域における大学のステータス向上の一翼を
担っていただけるものと期待しております。

2 会長以下役員構成の正常化について

標記については様々な場面でお話をさせていた
だいておりますので、既にご承知かと思いますが、
私が会長に就任した時点において、在学生を抱
えている役員は1名でその他の役員は全て在学生
を有していないという状況にありました。
(2)年目からは在学生を抱える役員は「ゼロ」とな
りました。

見方は色々あるとは思いますが、
例えば、我が息子や娘が在学していないのだか
ら、後援会活動を客観的に見ることができ、或
いは、冷静な判断ができるなどです。

しかし、在学生の声を吸い上げるとい点では
在学生を持つ方々の参加が不可欠であるというこ
とでは自明であり、私は役員構成がこのような状
況であることは「異常」な状況であるとは思え
ないです。

このようなことから、どうすれば役員をお引き
受けしていただけるのか、就中、理事への就任をお
引き受けしていただけるのか、様々な手法を考え
るなど模索して参りましたが、お陰様で昨年度か
ら少しずつ改善が進み、明年度の役員構成はほぼ
正常な形となる見込みとなりました。
今後とも、在学生が有意義に楽しいキャンパス
ライフを満喫できるよう、様々な声を吸い上げる
という観点からも会員の皆様方のご理解をお願い
いたします。

3 現時点における明年度予算編成の方針

現時点における予定では、2月25日にWGを開
催して方針の概略を決定し、3月18日に予定して
いる本年度最後の役員会において、明年度の事業
計画案、予算案並びに役員構成案を決定すること
としております。

本会報が皆様方に届く頃にはそれぞれの案が明
らかなになっていると思いますが、基本的な方針と

しては本年度事業および予算に特段の課題が無
かったことから、これを基本として計画、編成する
こととしております。

但し、次の二点について申し上げておきたいと
思います。

一点目

明年度に予定されている学生会館の整備に併
せて、学生の要望を踏まえて後援会として何らか
の支援を行いたいと考えているが、現時点では事
業内容が不明であることから、項目立てをせずに
予備費による執行を考慮して、ある程度予備費を
厚めに用意することとする。

私が聞いている範囲では、学生会館の竣工は平
成23年秋頃で規模は5階建て延べ床面積が凡そ3
千平方メートルのことです。

二点目

修学資金貸付金制度については、前年度まで
平成19、21年度(執行実績がないことから、今年
度末をもって廃止することとします。(本年度にお
いて執行実績がある場合は別途廃止方針について
協議することとしておりましたが、実績がないこ
とから方針通り廃止とします。)

以上、ご報告させていただきましたが、冒頭に申
上げたように、本会報は、後援会活動の状況な
どを会員の皆様方にお知らせし、ご理解とご協力
を得ることが何よりも大切との認識のもとに始め
たものですから、是非隔々までお読みいただき、後
援会活動に対するご意見、ご要望などがあればお
寄せいただきたいと思います。

最後に私事で恐縮ではありますが本年度をもつ
て会長を辞することといたしました。

この間、会員の皆様方には様々な形でご支援、ご
協力をいただきましたことに、この場をお借りし
て厚く御礼申し上げます。

特段の感慨はありませんがこの4年間で後援
会としての形は出来上がったと思いますので、こ
れからも大学との間が風通しの良い後援会として
発展されることを切に祈っております。

なお、万難を排して最後となる学位記授与式に
は出席したいと思っております。

そして、大学、短期大学部を卒業される皆さん
が、吹奏楽部の演奏をバックに学歌を高らかに歌
つてくれることを願っております。

終わりに、役員はそれぞれ仕事をもちながら、言
わばボランティアとして後援会活動に従事してお
りますので、活動に行き届かないところもあると
は思いますが、会員の皆様方には事情ご察察のう
え、後援会の目的が達成できますよう、今後とも
後援会活動への積極的なご参加と、なお一層のご
理解、ご協力をお願い申し上げます。



理事長・学長挨拶

「不安社会」を超える「三気」

学校法人鶴岡学園 理事長
北海道文教大学・北海道文教大学短期大学部 学長

鈴木 武夫



昨年の末に、ある大手の生命保険会社が行った「意識調査」の結果が、話題となりました。二十五歳から六十五歳の人を対象にした調査で「長生きを「不安」と捉える人が約9割」、「リスク(危険・怖れ)」と捉える人も約7割にのぼる」という結果が出たからです。

この調査自体は、「だから保険が必要ですよ」という結論に導くためのものだという皮相な見方をする識者もあつたのですが、それ以上に「最近の若者は困つたものだ」という若者批判のパターンで論ずる人のほうが多かつたようです。

最近の若者批判は「草食系男子」とか「自動車離れ」とか「テレビ離れ」といった特に男子の消極性をあげつらう方向が強いように思われます。

しかし、わたくしが日ごろキャンパスで行き交う学生諸君の実像とはやや違うという印象もあります。メディアで取り上げられる「年金崩壊」や「不景気」「就職難」という話題から「長生きはリスクだ」とまで考える若者が増えるのも当然ではありましよう。

また、新自由主義の社会認識以降の社会学的な分析が「不安社会」や「リスク社会」といった方向でまとめざるを得ない傾向であることも、大きく関わっているものとも思われます。

本学は「実学尊重」の基本理念をもつことに由来する気

風と「社会貢献」という行動性を背景にして高い就職率を保持していることもあつてか、「積極性」の強い学生が多いようにも感じられます。

どんな社会も、次代を担う若者の失敗を恐れない挑戦する心意気によって切り開かれるのです。その三つの要素は「元気」「勇氣」「根気」の三気であります。「気」というのは「景気」という言葉にもありますように、経済活動の源でもあります。

まず「元気」であること。「勇氣」をもって新しい局面に挑戦すること。そして、苦難にもめげず「根気」強く物事に取り組みこと。これがそれぞれの社会における若者の使命でもあります。

本学のキャンパスのなかで、学生たちが「元気」「勇氣」「根気」の「三気」を強く培うこと。そしてその過程で、「豊かな人間性」「健全な社会性」「高度な専門性」をもつた「実学能力の高い人材」として社会に巣立ってくれることが、私ども学園関係者の共通の願いであります。

教職員スタッフ一同の総力を結集して、「元気」「勇氣」「根気」の「三気」に溢れた人材の育成に取り組みでまいる所存であります。後援会の皆様の温かいご理解とご支援を心からお願い申しあげます。



幼児保育学科卒業生の就職活動について

今日までの取り組み

本学短期大学幼児保育学科はこの3月に最後の卒業生を送り出すこととなります。卒業生は、全道各地の幼稚園・保育所などで活躍してきています。長年に亘って高い就職決定率を維持してきましたが、その背景には、卒業生の方々の活躍が力になっており、先輩達の長年の実績に対する高い評価が少子化の時代の今日に於いても続いているからだと思えます。保育所や幼稚園の生活は、子ども達にとつて、家庭から外に出ての初めての集団生活であり、その一つひとつの体験が新鮮であり、そして他の子ども達との交わりが社会性を培いながら成長に繋がっていきます。

それだけに、保育所や幼稚園は良い生活環境であり、教育環境でなければなりません。その為には施設・設備が充実していることは、大切ですが、子ども達に対する愛情そして教育への熱意など指導する者としての資質を持った教員が特に求められます。「乳幼児期の特性と一人ひとりの性格を理解しながら暖かく子どもに接していく広い心の人間であつて欲しい」ことから、本学幼児保育教育は、専門性に加えて、人間性を高める教育を教育の柱にしなが、教職員一体となつて、学生の就職活動を支援してきました。

現2年生は、本学幼児保育学科教育内容を受け継ぎ、最後の卒業生として、目指す進路実現に向けて取り組んできています。

就職支援の内容

学生への就職支援として、今日迄、取り組んできた主な内容についてまとめたいと思います。

一年次

①先輩の就職状況の理解と進路に向けての意識付け

- ②2年間を見通した就職活動の流れ
- ③就職指導室の効果的な活用の仕方
- ④基礎学力および一般常識に関わる模擬試験の実施
- ⑤履歴書および論文作成の基本
- ⑥就職調査書の提出、希望職種と勤務地の確認

二年次

- ①実習のまとめを通じて、自己分析を行ない、具体的な進路希望先を検討し、その選考試験に向けて準備する
- ②教養および専門分野の学習法
- ③外部講師による就職活動の進め方やマナーの講座開催
- ④外部講師による模擬面接の実施
- ⑤学内組織を活かし、全教職員による面接、履歴書、論文の継続的な指導

教職員は、長年に亘つて培われた信頼関係を基盤に、積極的・継続的に、幼稚園・保育所などの訪問活動を実施してきました。

一人ひとりの学生の進路実現に向けて、個々の学生の適性・希望などを個人面談などによつて、的確に把握し、2年間の進路指導計画に基づき、教職員が一体となつて学生の支援に取り組んできました。

そしてご父母の皆様のお子様への進路に向けてのアドバイスと精神的な支えが学生にとつて大きな力にもなつたと思います。



後援会の資格取得の奨励について

北海道文教大学後援会より就職支援として、在学中の資格取得を奨励する為、就職に有利と思われる一定のレベルの検定に合格した学生に奨励金として、その検定受験料を平成二〇年四月より支給して頂いています。

奨励金を受けた学生の人数は次の通りです。

(平成二十一年度)

・販売士3級十六名・中国語検定2級二名・福祉住環境コーディネーター2級二十名・英語技能検定2級十五名・TOEIC六〇〇点以上七名・日本語検定2級一名・ビジネス技能検定2級一名・秘書技能検定2級二名 計六十四名

(平成二十二年度)

・販売士3級十六名・中国語検定2級二名・福祉住環境コーディネーター2級五十五名・英語技能検定2級十名・TOEIC六〇〇点以上八名・漢字検定2級四名・秘書技能検定2級一名・ファイナンシャル・プランニング3級4名・ファイナンシャル・プランニング3級(学科または実技の科目合格)4名・サービス接遇実務検定2級一名 計一〇五名 (平成二十三年一月三日現在)

この他就職活動に関わるものとして次の支援を頂いています。

- ①外部講師による学内支援講座
- ・筆記試験対策講座(三年生)
- ・留学生対象就職講座
- ・販売士講座
- ・公務員講座
- ②履歴書添削費用(外部講師)三年生
- ③適性検査 RICA P(三年生)
- ④行政主催の合同企業説明会々場での未内定者指導の為の費用
- ⑤病院・施設参加による理学・作業療法学科学内就職説明会費用
- ⑥就職活動拠点(札幌市内)費用

吹奏楽同好会の活動について

本学吹奏楽同好会は、平成20年7月に結成されたばかりの新しい学生団体です。この度、後援会から2年間で約640万円もの補助を頂いて楽器を揃えることが出来、メンバーも40名に増えました。後援会の皆様には、深く感謝申し上げます。

吹奏楽同好会は、結成当初、学生10人からなる愛好会として発足し、自分で楽器を持っている学生だけが、放課後に細々と集まり、空き教室で好き勝手に練習しているだけでした。ところが翌年、学生委員のメンバーから、学位授与式や入学式で学歌などをCDで流すのは大変寂しいので、吹奏楽愛好会に演奏してもらえないだろうか、という相談が学生課にありました。当時の吹奏楽愛好会は、上記の様な状況だったので、式典で演奏することなど不可能でしたが、この話を受けた学生課が、楽器購入について後援会に相談したところ、約300万円もの補助を頂けることになりました。

300万円と言えばかなりの金額ですが、楽器は式典での演奏に耐えられるものとなると、30〜50万円が普通で、必要な楽器を全部揃えられる訳ではありません。しかし、300万円もの補助を頂けると知り、学生のモチベーションが劇的に向上しました。300万円を有効利用するため、楽器の選定に学生同士が連日会議を行い、楽器店と折衝を重ねるだけではなく、自分の出身高校や小学校にまで出向き、楽器を借りる交渉をする学生まで現れました。こうして楽器を揃えた結果、翌平成22年の大学祭では、楽器の種類ごとに演奏するアンサンブル演奏会を開催するまでになりました。演奏会は3日間行ったのですが、特に3日目の最後の演奏会は学生にとってもかなり満足の出来だったらしく、あの時の感激に満

ちた学生の表情は、是非皆様にも見て頂きたかった程です。

こうして、大学祭では成功を収めることが出来ましたが、何せ小学校からまで楽器を借りている状態なので、楽器を返して欲しいと言われれば、それまでです。また、打楽器を始め一部の楽器も不足しており、この体制で式典の演奏をすると結構寂しいことになってしまいます。そこで、昨年巨額の支援を頂いていながら大変申し訳ないとは思ったのですが、再度学生課から後援会にお願いをしましたところ、昨年以上回る340万円もの補助を頂けることになりました。正直、2年連続してこれほど巨額の支援を頂けるとは考えていませんでしたので、学生始め関係者一同、大変感激し感謝の気持ちで一杯です。

2年間で約640万円の補助を頂き、18種類、27個の楽器を購入することが出来ました。これで、ほとんどの曲を演奏することが可能となりました。現在、学位授与式と入学式での演奏に向け、日曜日も集まり猛特訓中です。来年度は、同好会から部への昇格を目指しています。また、恵庭夏祭りなど地域のイベントや老人介護施設などでのボランティアなどにも参加して演奏を披露する予定です。これからの活躍に、どうぞご期待下さい。

